

令和4年度 群馬県地球温暖化防止活動推進員 活動報告

群馬県 環境森林部 環境政策課

基本データ

- 委嘱人数
138名（令和5年3月31日時点）
- 委嘱期間
令和3年5月21日～令和5年3月31日
- 令和4年度活動報告書提出者数
105名（76.1%）

1. 日常生活における実践 (自らが取り組んだこと)

	人数 (人)	割合 (%)
節電・省エネ行動	100	72.5
スマートムーブ (公共交通機関・自転車・徒歩での移動、エコドライブ等)	75	54.3
環境にやさしい買い物 (マイバッグ利用、地産地消、てまえどり等)	95	68.8
プラスチックごみ削減	74	53.6
食品ロス削減	88	63.8
5Rの実践	72	52.2
その他	20	14.5

1. 日常生活における実践 (自らが取り組んだこと)

～その他の具体的な内容～

- ・ グリーンカーテンの設置
- ・ 太陽光発電の設置
- ・ 電力の自然エネルギープラン
への切替え
- ・ EV車の積極的利用
- ・ マイボトル啓発
- ・ ソーラークッカーによる調理
- ・ 風呂の残り湯の使用
- ・ 雨水の再利用
- ・ 生ゴミの堆肥化
- ・ ゴミの減量
- ・ ゴミ拾い
- ・ ゴミステーションの整備

2. 研修や会議等への参加 (他者の企画に賛同したもの)

	人数 (人)	割合 (%)
群馬県及び群馬県地球温暖化防止活動推進センターが開催する研修や講演会等	68	49.3
国、市町村が開催する研修や講演会等	36	26.1
民間企業が開催する研修や講演会等	21	15.2
市民活動団体が開催する研修や講演会等	22	15.9
推進員が各地区で開催する地区会議等	28	20.3
その他	5	3.6

2. 研修や会議等への参加 (他者の企画に賛同したもの)

～その他の具体的な内容～

- 環境アドバイザーの団体が企画したイベント
- 地球温暖化対策地域協議会

- 市町村の協議会
- クリーン作戦
- 森林組合の活動

3. 普及啓発活動 (自ら企画したもの)

	人数 (人)	割合 (%)
各種セミナー・研修会・出前講座等の講師を務めた	24	17.4
各種イベント等に出展、協力した	32	23.2
地域住民、勤務先、所属する団体等において普及啓発活動を実施した	46	33.3
広報誌・会報誌の作成や投稿、ホームページ・SNSを通じて普及啓発活動を発信した	34	24.6
その他	10	7.2

3. 普及啓発活動 (自ら企画したもの)

～その他の具体的な内容～

- ・ 「元総社エコクラブ」だより
- ・ 「エコ農園」通信
- ・ 自然体験活動指導者養成講座
での普及啓発活動
- ・ 廃油石鹼作り
- ・ 市の審議会委員
- ・ Refill調査活動
- ・ 大学での講義
- ・ 桐生市小規模事業者向け省エネ補助金の活用支援
- ・ 公共交通利用促進のための企画会議の
主催
- ・ エコラボカフェでのセミナー講師
- ・ 自宅での子ども体験教室の主宰
- ・ 地域自治会の運営委員会で生活系ごみ
排出状況を紹介

4. 活動内容

- ・ 出前講座（講師として参加）
- ・ ステージアース
- ・ 脱炭素ライフスタイルフェア
- ・ 群馬県民の日特別イベント
- ・ COOLCHOICE公開セミナー
- ・ 県地域環境学習推進事業
- ・ ぐんま環境フェスティバル
- ・ のりのり学会
- ・ 環境アドバイザー温暖化・エネルギー一部会
- ・ みんなの環境フォーラム
- ・ 環境パネル展
- ・ SDGsとまちづくりフォーラム
- ・ 公共交通フォーラム
- ・ 小学生を対象としたバスの乗り方出前講座
- ・ 本当にいるのバス電車実行委員会・フォーラム
- ・ 2030SDGsカードゲーム
- ・ SDGsワークショップ

4. 活動内容

- ・ 伊勢崎市環境フェスティバル
&市民交流まつり
- ・ 伊勢崎市花と緑と環境フェア
- ・ 伊勢崎市環境の日パネル展
- ・ 伊勢崎市環境啓発ポスター展
- ・ 渋川市環境審議会
- ・ 渋川市太陽光発電設備設置審議会
- ・ 榛東村環境美化推進協議会において
エコフェスタを実施
- ・ よしおかふるさと祭りでの環境啓発
活動
- ・ 高崎市環境フェア
- ・ 高崎市夏休み子どもフェスティバル
- ・ 前橋市夏休み子ども消費生活教室
- ・ 草津町文化祭における展示
- ・ アースデイin桐生
- ・ 地球環境映像祭
- ・ 太田市産業環境フェア
- ・ 太田市COOLCHOICEイベント
- ・ 綿打ふれあい祭り
- ・ 石田川みんなで再発見プロジェクト

4. 活動内容

- ・エコクッキング講座
- ・西部地区推進員通信「青空ひろば」の発行
- ・カーボンニュートラルカードゲームの開催
- ・「脱炭素まちづくりカレッジ」講師
- ・エコカレッジ講師
- ・省エネセミナー講師
- ・小中学生へ5つのゼロ宣言の授業
- ・大学における寄付講座
- ・エコウォークごみ拾い
- ・ノーマイカー通勤（減CO₂プランの呼びかけ
- ・燃えるゴミの削減やプラスチックゴミ分別等のチラシを作り地域へ配布
- ・ごみの散乱防止と5Rを進めるための標語コンテストへの応募
- ・社内朝礼において「前橋市地球温暖化防止実行計画の見直し」について発信
- ・地域ゴミステーションの巡回
- ・山林パトロール

5. 感想・意見・情報提供等

- ・コロナ対策として研修のネット配信を行ってくれたが、時間的に研修に向けない推進員にとって、とても助かった。
- ・年度前半はコロナ感染拡大から活動に大きな制限があったが、下期以降はイベント開催等積極的に活動できた。所属している会社にてエコ通勤の認証を取得する等、満足できる結果を得られた。
- ・コロナ下で思うような活動が出来ませんでした。地域での花壇の手入れや、会合で会った時などは、情報を発信するよう心掛けました。
- ・何度か参加させて頂いた研修会では皆さんの活動の報告を知る事が出来て、大変刺激になりました。今後も私なりに出来る事から初めていきたいと思えます。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 2030年目標、2050年目標に向けて、緊迫感をもって活動する必要があると反省だが、なかなか自分の生活との関係で活動に時間をかけられないのが課題である。
- ・ 自ら企画するのは、どのような機会に計画し内容・資料はどうすれば良いのか難しい。
- ・ 県として推進員がもっと活動できる場所、計画などを、会員に知らせて一緒に市町村も含めて先頭を走ってほしかった。
- ・ カーボンニュートラルはまだ無関心の方が多く、どのようにしたら関わられるのか、どうすればよいのかを学ぶ機会を提供していきたい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 今後も若い世代に関心を持ってもらえるよう、普及・啓発活動に取り組んでいきたい。
- ・ 今後は、活動の世代交代も必要であるので、自分のスキルを活かした後継者育成の活動も行いたい。
- ・ 2月の環境フェスティバルでは、高校生や中学生とも話をする機会があり、環境に関心がある若者がいる事を実感できた。
- ・ 日常において、近頃地球温暖化（気候変動）に対するメディア情報が沢山出ていますが、依然として環境に対する意識は低いと感じます。特に大人は目の前の生活に追われているため、価値観を変えることは難しく感じます。本年度、高校生への出前講座を行う機会があり、子ども達へ啓発を行う中で、大人より興味をもってもらえたと感じました。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 土日・祝日や学校の長期休暇期間中などに、親子（祖父母と孫）で参加できる企画がもっとあると良いと思います。楽しみながら取り組める次世代への環境教育は、これからもっと必要になると思うからです。
- ・ てまえどりがなかなか実践できなかった。ついつい奥から日付の先のものを選んでしまうが、あるとき、まわりまわって自分に返ってくることを知った。
- ・ 食品ロスについて、以前より意識することが多くなった。
- ・ 会議・研修会等への出席がなかなか叶いませんでしたが、一日本人、一群馬県民として地球温暖化について考え、行動することが以前より増えてきて、「1. 日常生活における実践」のすべてに○を付けることができました。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・ 行動変容の難しさを再確認した。知っていても行動に繋がらない場合もある。
- ・ どんな小さなことでも一步一步実施することでやがて温暖化に対する大きな意識の変化につながっていくと思います。
- ・ 2030年そして2050年の節目におけるいろいろな目標達成までそんなに遠くないことを知り、地球温暖化防止活動推進員として、次のステップへと自覚し始めることが必要と思った。
- ・ 住民の環境への関心が高まってきており、「マイバッグ」や「てまえどり」なども当たり前の言葉となってきた。これから環境問題の関心や重要性も高くなっていくことから取り組めることを積極的に行っていきたい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・住民・市役所職員が「自分ごと」として捉えられるよう普及啓発活動を進めるてはいるが、まだまだ難しい。しかし近年はマスメディアで取り上げられることが増え、関心が少しずつ高まっている感触はある。
- ・住民の環境に対する意識は少しずつ向上しているが、ぐんま5つのゼロ宣言も知らない人が多い。住民に対するPR活動を強化する必要がある。会議や研修でも推進員の参加が少なく感じる。行政の推進員から情報を提供してもらい地域の推進員と共有することも必要。
- ・地域での少子高齢化が進んでおり自治体組織の構築も難しい。地球温暖化防止活動推進員としても活動の重要性は理解しているつもりだが実際個人で何ができるか（やるか）が難しい。ボランティア活動自体がむずかしい。

5. 感想・意見・情報提供等

- ・プラスチックごみ削減のため、市として、飲食店等を対象にテイクアウト容器等に対する補助事業を実施したところ、環境に配慮した営業方法に関して、多くの事業者の興味関心があることが分かった。一方で、事業者への制度周知の難しさや、環境配慮型商品が通常の商品と比較し高額であることなどから、課題を感じる場面が多かった。
- ・昨今のエネルギー価格や物価高騰により、何か取組みをしたいと思っている事業者は多いと思うが、本当に省エネ活動をしたいと考えている事業者は少ないと感じる。小規模事業者の関心度合いが高まる施策の検討が必要ではないかと思います。